

- 1 題材名 曲のかんじを生かそう（6時間）
 教材名 鑑賞 「メヌエット」
 表現（器楽）「山のポルカ」（歌唱）「帰り道」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

- A表現（1）歌唱 ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
 イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。
 ウ(イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能
 （2）器楽 ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
 イ(イ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり
 ウ(イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能
 B鑑賞 ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。
 イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。
 [共通事項]（1）ア 音色、リズム、旋律 反復、変化
 ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：旋律
 ・取り扱う音符、休符、記号や用語：スタッカート

（1）題材観

本題材は、前題材の「せんりつのとくちょうをかんじとろう」に引き続き、旋律に焦点を当てながら、曲想との関わりを考えて表現や鑑賞を深める学習を行う。

2年生では、曲の背景にある「具体的なイメージ」を感じ取る学習を行っている。3年生で「曲全体の雰囲気」を感じ取りながら鑑賞し、それを生かして表現することへと学習が深まる。

音楽に合わせて体を動かしたり、曲をまとまりごとに聴いたりする活動を通して、曲の特徴を捉えられるようにし、表現の工夫に繋げていけるようにしていく。

（2）指導観

第一次では、「メヌエット」の鑑賞を行う。この学習では、音楽に合わせて体を動かしたり主な旋律を口ずさんだりすることで、旋律の上がり下がりやリズムの違いが生み出す特徴を聴き取れるようにする。また、曲のまとまりごとに聴く活動を通して、アーイー→アといった音楽の構造と反復や変化に気付けるようにすることで、徐々に曲全体を見通すことができるようになり、音楽を味わって聴くことにつながると考える。

第二次の器楽の学習では「山のポルカ」を扱う。2年生のときの既習曲であり、ここではリコーダーの演奏の仕方と曲想との関わりについて学習できる曲である。旋律のリズムに合わせてリズム打ちをする活動を通して、同じリズムで構成されていることに注目させ、4分の2拍子の軽やかな踊りの音楽がもつ特徴をとらえて、タンギングや息の強さを工夫して演奏することができるようにする。これは4年生でスタッカートやレガートの特徴を生かした表現の工夫につながる学習になる。

第三次の歌唱の学習では「帰り道」を扱う。この曲はアーイー→アといった構造になっている。また、イの部分では2小節ごと、4分音符を中心とした同じリズムが続く。活動の導入部分から、「メヌエット」と同様の活動で反復や変化に着目できるようにしたり、「山のポルカ」と同様の活動でリズムの特徴に気付くことができるようにしたりする。そうすることで、児童は既習の活動を想起しながら自ら学びを深めることができる。そこに歌詞の表す内容や、旋律の反復や伴奏の変化が生み出す曲想の変化などを根拠に、歌い方の工夫を考えられるようにしていく。

今回、グループで歌い方の工夫を考えていくが、楽譜だけを見ながら話し合う活動は、音楽の得意な児童にとっては無難にできるかもしれないが、苦手な児童にとってはイメージが湧きにくく困難であると考え。そこで、伴奏の音源を各自がギガタブで視聴することができるように、クラスルーム

のストリームに共有する。そうすることで、各グループが自分たちのペースで伴奏を聴くことができる。歌い方の工夫について活発に話し合いを進めたり、イメージの共有をしやすくしたりすることに活用したい。

3 題材の目標

- 音色、リズム、旋律や歌詞の内容と曲想との関わりに気づき、それらを生かして表現するための技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- 楽器の音色、旋律の反復や変化が生み出す曲のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現について思いや意図をもったりする。(思考力、判断力、表現力等)
- 楽器の音色、旋律の反復や変化が生み出す曲想の違いを味わって聴いたり、曲想にふさわしい表現の仕方を工夫して歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 曲想やその変化と、リズムや旋律との関わりについて気付いている。	① 音色やリズム、旋律などと曲想との関わりについて考え、体を動かすなどして曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	① 楽器の音色や旋律の反復や変化が生み出す曲のよさを感じ取りながら、聴く学習に進んで取り組もうとしている。
② 技 リコーダーの音色や響きと、タンギングや息の流れなど演奏の仕方との関わりに気付き、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。	② 音色やリズム、旋律などと曲想との関わりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	② 曲想と楽器の音色やリズム、旋律との関わりが生み出す曲や演奏のよさなどを感じ取りながら、曲想にあった表現を工夫して演奏する学習に進んで取り組もうとしている。
③ 知技 曲想と旋律の反復や変化、歌詞の内容との関わりに気付き、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。	③ 旋律の反復や変化、音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	

研究の視点

【視点1】9年間を見通した学び方の共有

○児童自身が曲の特徴に気付くための活動

2年生までは曲想を感じ取る学習を行ってきており、3年生以上では曲の特徴を捉えることが大切になってくる。児童が自分自身で特徴に気付き、実感することができるよう、音楽に合わせて体を動かしたり口ずさんだりする活動を、題材を通して行っていく。このような活動は、5・6年生になって曲の特徴にふさわしい表現をするための手がかりとして、また中学生になって歌唱表現の創意工夫をするための手がかりとして有効であると考えられる。

【視点3】評価の在り方

○表現の工夫の根拠を明らかにするための記し方

本教材では、反復や変化などの曲の特徴を捉え、児童が表現の工夫を考える際の拠り所としたい。そこで、ワークシートの吹き出しを「【特徴】から【表現の工夫】かんじで歌う」という穴埋めの形式にし、(例)「【音が下がっていく】から【静かな】かんじで歌う」と書き込めるようにする。そうすることで、児童にとって根拠を大切にする必要感が生じたり、歌うときに表現の工夫をより大切にするための土台になったりすると考える。また、子供たちが曲の特徴をいかに捉えて表現の工夫に繋げることができたか教師が確認することができ、子供たちが活動後に自己評価する際にも有効に活用することができると考える。

【コロナ対応として】

- ・歌唱指導を行う際、児童同士の間隔を前後左右2mずつ確保するのに、本校の音楽室では狭くて困難である。そのため、ギガタブが1人1台貸与されたことで、使用頻度が大幅に減ったコンピュータ室を活用し、児童同士の間隔を確保した上で指導にあたる。

6 題材の指導計画及び評価計画（6時間扱い）（本時6/6）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素、 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童（生徒）の姿	評価規準 （評価方法）		
				知技	思	態
◎曲の感じを味わって聴く。				↓ ①知 （観察・記述・発言）	↓ ①（記述・発言）	↓ ①（観察・記述）
第一次	第1時	○旋律の特徴を感じ取って聴く。 ・アの旋律のみを聴く。その後口ずさむ。 ・音楽に合わせて体や手を動かしながら、アの旋律を聴く。 ○アとイの旋律について、音の上がり下がりやリズムに気を付けて聴く。 ・イの旋律を聴く。その後口ずさむ。 ・音楽に合わせて体や手を動かしながら、イの旋律を聴く。 ・アとイの旋律を比べて、感じたことや気付いたことを、ワークシートに自分の言葉でまとめる ☆〔リズム、旋律〕	○バイオリンで演奏されていることを伝え、主な旋律を覚えるようにする。 ○アの旋律を体や手の動きで表すようにする。覚えた旋律の動きをうまく感じ取っている子供の体の動きを紹介する。 ○子供の発言内容を聞いて、アの旋律の特徴を整理しながら板書していく。 ○覚えた旋律の動きをうまく感じ取っている子供の体の動きをクラスで共有する。 ○子供の発言内容を聞いて、イの旋律の特徴を整理しながら板書していく。 ・曲想やその変化と、リズムや旋律との関わりについて気付いている。			
	第2時	○バイオリンの音色や曲全体を味わって聴く ・旋律に気を付けながら、曲想を感じ取って部分的に聴く。 ・体を動かしながら、曲全体を聴く。 ・バイオリンについて知る。 ・曲名、作曲者を知り、曲想の変化に気を付けながら曲全体を聴く。 ・音楽を聴いて楽しかったこと、面白かったことを発表する。 ☆〔リズム、旋律、反復、変化〕	○前時にまとめたことや学習したことを振り返る。 ○初めて曲全体を聴いた後、新しく見つけたことを問いかける。 ○ア→イ→アとなっていることに気付いた子供を紹介し、曲の構成をおさえる。 ・音色やリズム、旋律などと曲想とのかかわりについて考え、体を動かすなどして曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。 ○映像資料を視聴し、アとイの旋律の演奏の仕方の違いに気付くように、弓の動きに注目するように促す。 ・楽器の音色や旋律の反復や変化が生み出す曲の良さを感じ取りながら、聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ○「メヌエット」は3拍子の踊りの音楽であることを知らせる。			

◎曲の感じに合った吹き方を工夫して演奏する。						
第二次	第3時	○旋律やリズムの特徴を聴き取り、運指や音色に気を付けてリコーダーを演奏する。 ・指導用CDを聴き、既習曲であることに気付く。 ・指導用CDを聴き、気付いたことや感じたことを発表する。 ・旋律のリズムの特徴を感じ取りながら、リズム打ちをする。 ・旋律を階名唱する・ ・リコーダーのファとミの運指を確認する。 ・リコーダーでファとミの音を吹く。 ・運指や音色に気を付けて得そうする。 ・振り返りを行う。 ☆〔音色、リズム、旋律〕	○旋律は2年生で学習した曲であることを確認する。 ○旋律の特徴について、気付いたことや感じたことを整理して板書する。 ○段ごとに担当を分担してリズム打ちを行い、リズムが4段とも同じであることに気付くようにする。 ○息のスピード、音あなの閉じ方などに気を付けるよう助言する。 ○ファとミの音をきれいに吹出している子供を紹介し、息の使い方を全体で模倣するように働きかける。 ・リコーダーの音色や響きと、タンギングや息の流れなど演奏の仕方との関わりに気付く、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。	② 知技 (観察・演奏聴取)		
	第4時	○旋律の特徴に合う表現を工夫して、リコーダーで演奏する。 ・踊りの中の一つである「ポルカ」はどのような踊りなのか考えて、その踊りのイメージに合う演奏の仕方を工夫する。 ・旋律の特徴にあったタンギングや息の使い方に気を付けて演奏する。 ・グループに分かれて発表し合い、お互いの演奏のよいところを伝え合う。 ☆〔音色、リズム、旋律〕	○さまざまな踊りがある中で、2拍子の音楽の感じから、どのような感じでどのような速さで演奏される踊りなのか、考えるようにする。 ○踊っている様子を思い描きながら、リコーダーの演奏の仕方を工夫するよう助言する。 ○教師がリコーダーで音を伸ばして吹いたり短く切って吹いたりして聴かせて、旋律の特徴に合う吹き方を考えるようにする。 ・音色やリズム、旋律などと曲想との関わりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 ・曲想と楽器の音色やリズム、旋律との関わりが生み出す曲や演奏のよさなどを感じ取りながら、曲想に合った表現を工夫して演奏する学習に進んで取り組もうとしている。	② (観察・発言)	② (観察・記述・聴取)	
◎歌詞の表す様子を思い浮かべながら、曲の感じを生かして歌う。						
第三次	第5時	○歌詞の表す様子を思い浮かべ、曲の雰囲気を感じ取る。 ・歌詞を声に出して読み、歌詞の内容から想像したことや感じたことを発表する。 ・指導用CDの範唱を聞きながら、歌詞の表す様子を思い浮かべる。 ・曲の雰囲気を感じ取りながら歌詞唱する。 ○曲全体の旋律の特徴に気付いて歌う。	○教科書の挿絵を参考にしたり、身近な下校時の景色を思い浮かべたりしながら、曲の雰囲気を感じ取るようにする。 ○旋律の反復や似ている部分、ほかの部分とは異なる動きをしている部分などがあるか問いかける。出てきた子供の意見は、テレビに教師用ギガタブを投影して集約する。 ○フレーズの最後が下降する旋律のところや、長く伸ばす音のところも、明るく自然な声で歌うように声をかける。			

		・楽譜を見て、フレーズごとの旋律の特徴について話し合う。 ・楽譜を見て、旋律の音の上がり下がりを手で表す。指導用CDに合わせて「ラ」や「ロ」などの言葉で旋律を歌う。 ・発音の仕方に気を付けながら、数名ずつフレーズごとにリレーして歌う。 ☆〔旋律、反復、変化〕	○歌う順番を変えながら、一人一人がどのフレーズも特徴を感じ取って歌うことができるようにする。 ・曲想と旋律の反復や変化、歌詞の内容との関わりに気付き、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。	 ③ 知技 (観察・聴取)		
	第6時 (本時)	○曲想や歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫する。 ・4～5人のグループをつくり、曲想や歌詞の内容にあった歌い方の工夫を話し合う。 ・グループごとに話し合った歌い方の工夫を試す。 ・歌うグループと聴くグループに分かれて互いの発表を聴き合い、それぞれの歌う方の工夫のよさを味わう。 ☆〔旋律、反復、変化〕	○歌い方の工夫のポイントを提示し、それらを参考にして、ワークシートに自分たちの考えを書き込むようにする。 ○自分たちの歌い方の工夫がどうだったか、聴いたグループの感想を参考にしたり、他のグループの歌い方の工夫のよさについて気付いたことをワークシートにまとめたりして、学習を振り返るようにする。 ・旋律の反復や変化、音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。		 ③ (記述)	

7 本時の指導（6／6）

（1）本時の目標

旋律の反復や変化、音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

（2）本時の展開

学習内容 ・ 学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ・目指す児童（生徒）の姿 ◇評価規準（評価方法） ＊コロナ対応（場の設定や支援、配慮事項等）
1 指導用CDで「帰り道」を聴き、曲の感じや特徴を思い出す。 2 本時の目標を確認する。	○前時に子供から意見として出てきた、旋律の反復や似ている部分、ほかの部分とは異なる動きをしている部分などについて共有し、確認する。 ＊意見をまとめた画像データは、ギガタブを使って各自が見られるようにする。
どのように歌ったら、せんりつのとくちょうが生かせるだろう。	
3 曲想や歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を考える。 ・4～5人のグループで、曲想や歌詞の内容にあった歌い方の工夫を話し合う。 ・各グループでギガタブのクラスルームにある伴奏音源を聴きながら検討する。 ・伴奏音源を流してグループごとに話し合った歌い方の工夫を試す。 4 自分たちが考えた歌い方の工夫で発表し合う。 ・歌うグループと聴くグループに分かれて互いの発表を聴き合い、それぞれの歌い方の工夫のよさを味わう。 5 振り返りを行う。 ・自分たちの歌い方の工夫がどうだったか、聴いたグループの感想を参考にしたか、ほかのグループの歌い方の工夫のよさについて気付いたことをワークシートにまとめたりする。 ☆〔旋律、反復、変化〕	○「滑らかに歌いたいところ」「はっきり歌いたいところ」「盛り上がりたいところ」など、歌い方の工夫のポイントを提示し、それらを参考にして、ワークシートに自分たちの考えを書き込むようにする。 ○自由に発想できるように、「こうしなければいけない」ということはないことを伝える。 ・曲の感じや特徴を踏まえた歌い方の工夫について、自分なりに意見を出している。 ＊グループ同士の距離をとって活動することができるように配置をする。 ○聴くグループが、歌うグループの観点がわかるように、歌い方の工夫について板書する。 ◇旋律の反復や変化、音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲の特徴をとらえた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 （思考・判断・表現） （ワークシート）